

新型コロナウイルス対応緊急支援助成  
事業計画（実行団体）

事業名(主)	孤立させない！子どもが選択できる居場所
事業名(副) ※任意	安心と学びを促す社会との繋がり創造

入力数 主 19 字 副 18 字

実行団体名	一般社団法人 O MUTA BRIDGE
資金分配団体名	一般社団法人 SINKa

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
<input checked="" type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援
	<input type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input checked="" type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input checked="" type="checkbox"/> コロナ禍における子ども達のメンタルヘルスの課題とその背景にある孤立の改善に向けた支援とシステム作り
------------------------	---

入力数 49 字

SDGsとの関連

ゴール
_1.貧困をなくそう
_3.すべての人に健康と福祉を
_4.質の高い教育をみんなに
_11.住み続けられるまちづくりを
_17.パートナーシップで目標を達成しよう

実施時期	2021年 7月 ~ 2022年 2月	事業 対象地域	全国 <input type="checkbox"/> 特定地域 <input checked="" type="checkbox"/> ( 大牟田市 )	事業対象者： (事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む)	小学生、中学生全般 ※特に不登校や貧困、自傷行為等課題を抱えた子ども、その他困難さを抱えた子ども	事業 対象者人数	述べ200名
------	---------------------	------------	--	---------------------------------------	---	-------------	--------

I.団体の社会的役割

(1)申請団体の目的
「子どもの夢や希望を育む街大牟田へ」を共通の目的とし活動している市民団体である。 わたしたちは、すべての子ども達が自分らしく生きる力（レジリエンス）を高めることを目的とし、子ども達に人との出会い、社会体験、気持ちと向き合い表現するなど様々な機会を提供していく。 併せて、本団体が5年前より取り組んでいる「なないろリボン学習会」では、子ども支援に関わる、関心のある大人に向けた対話型研修を定期的に開催し、この街で子どもの未来について何が出来るかを考え繋がるプラットフォームづくりを実施している。これらの取り組みを積み重ね、子どもに寄り添い伴走出来る大人を増やすことで、「安心安全な対話のあふれる街」を目指す。
(2)申請団体の概要・事業内容等
本団体の組織を構成するメンバーは、教育、福祉、医療、商業等、幅広い領域の第一線で活躍しているメンバーで構成されており、職業としてもそれぞれの立場で子ども支援に関わっている。我々は特定の家庭的環境課題や不登校等の課題を抱えた子ども達はもちろんのこと、課題が表面化していない子ども達との繋がりも強化し、対象を限定しない働きかけを行っている。 大人に向けた活動：啓発イベントの開催（自閉症啓発デー、映画の上映、シンポジウム）、研修と対話のプラットフォーム事業の開催（1回/2月）、教育福祉行政連携による子ども支援ツール作成事業 子どもに向けた活動：オンライン・オフライン ワークショップ（1回/2月）、寺子屋（2回/週）、P R e I S（1回/月）、教育機関と連携した子どもまちづくり会社(仮) 2021年度事業

入力数 (1) 305 字 (2) 350 字

II.事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
実践地域の福岡県大牟田市は人口11万人の中核都市である。人口の流出が顕著でこの10年でも1.3万人の減少が見られる。高齢化率が36.7%（全国平均28.1%）と10万人都市の中でも高い水準を示し、生活保護率3.57%（全国平均1.67%）や就学援助率の高さなど、経済的な課題を抱えた家庭が多い。教育課題として、中学生の不登校出現率が全国平均と比較してもかなり高く、学力・自尊感情が低いというデータ（非公表）が存在する。その背景には、貧困やひとり親などの家庭環境要因、画一的な教育方針や評価基準など学校環境からみられる子ども達の主体性の低下、価値観の多様化や、地域コミュニティの衰弱化などの要因が複雑に絡み合っている。 そのような環境背景の中、コロナ禍における子どもや子育て世帯の孤立が顕著となっている。閉鎖環境下の虐待の問題や、抑圧された環境や感情の矛先としての自傷行為や依存症の問題が深刻化しており、不登校やリストカットなどの問題は低年齢化しゲーム依存や生活リズムの悪化、リストカット行為を共有するためのSNSグループまで存在する。そのような行動の背景には、 ①自身の状態を客観的に理解する力や向き合う機会の低下②誰かに痛みや苦しさを伝える環境や経験が希薄であることからくるSOSを発信するスキルの不足などがみられ、それらの経験をやる安心安全な場所が必要である。私たちは、心のワークショップ、体験型ワークショップ、オンライン寺子屋、子どもまちづくり会社(仮)という4つの取り組みを通して、子どもと大人、教育、地域、商工業者、大学、高校ごちゃまぜの対話の機会を創造し、安全な環境の中で対話することによる「安心」を体感する機会を提供することで、一人でも多くの子どもの孤立を解消し子どもの想いに伴走したい。

入力数 793 字

III.事業内容

<p><b>(1)事業の概要</b></p> <p>対話を通じた関わりを基軸に、子どもが安心して語り繋がることのできる安全な機会や経験を提供し、レジリエンスを高める「第三の居場所」を創造する。</p> <p>1) 寺子屋（オンラインの居場所と学習支援事業）では、中学生前後を対象に学習支援や心理的サポートの出来る安全な場を平日夜に週2回、決まった時間に運営し自由に出入りできる空間を提供することで孤立の軽減を図る。2) P R e I S（困難を抱える子どもの生きる力を高めるオフライングループワーク事業）では、ヤングケアラーの問題等を抱えた子どもを対象に、心理教育、S S T、C B Tなどのプログラムを通して、家庭環境に影響されない知識や生活力や選択する力を身に付ける。</p>
--

入力数 298 字

<p><b>(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態</b></p> <p>子供達にとって安全安心な第三の居場所として本申請以外の事業と併せて4つの事業を展開し、子ども1人ひとりが自身の興味関心にあった居場所の選択を促す。活動への動機付けや繋ぎ、また子供からSOS発信があった場合のフォローは学校や福祉、地域と連携し強化されている。当事業での出会いや対話を通し、ありのままにいられる、承認されることで、孤立や家庭環境等の課題から生じる自傷行為や依存の問題が軽減されている。</p>
---

入力数 198 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
<p>①オンライン寺子屋を平日夜に実施。必要に応じてタブレットを貸与。</p> <p>②困難を抱えた子どもを対象にP R e I Sを月に1～2回、週末に実施。参加する子どもの状態に合わせて、生活力を高めるためのプログラムを提供。</p>	<p>①70回実施 月、木の19時から20時30分（90分）実施回数や参加者数。</p> <p>②実施回数や参加者数。実施したプログラム資料。</p>	<p>①活動記録、カウント タブレットの配布台数</p> <p>②活動記録、カウント</p>	<p>①開催回数70回。タブレット10台程度の配布。参加者数述べ150人程度。</p> <p>②開催回数10回。参加者数述べ35人程度。</p>	2022年2月

(4)活動	時期
<p><u>オンラインの居場所【寺子屋】</u></p> <p>・大学生と専門職サポーターがペアとなり、対話を通し子どもに向き合いながら、学習サポートや話の傾聴、孤立軽減を図る。</p> <p>2020年10月よりパイロット的に実施している本事業であるが、現在8名の登録者があり、そのほとんどが不登校等の課題を抱えている。</p> <p>通常、第三の居場所などに繋がりにくい希求意識の低い子どもも参加しているが、寺子屋のサポートメンバーはスクールソーシャルワーカーや子ども家庭支援センターの職員であるため、丁寧な動機付けのもと寺子屋に繋がり、生きづらさや生活上の困りごとを話す場となっている。</p> <p>それらの結果として、表出していた行動課題の軽減が図れている。また、福祉系大学のサポーターによる学習支援も行われており、参加者のベースや関心に応じた学習の提案を行っている。</p> <p>寺子屋で表出された状況を、本人の了承のもと学校や家庭と連携し、実生活のフォローにも相互的に関与している点は大きな強みと言える。</p> <p>また、対象は主に中学生前後とし(自我が芽生え孤立感による問題行動が起こりやすい年代)、チャットのみ、カメラ不使用等、その子に合った参加方法をとることが出来、いつでも参加し抜けられる気軽さもメリットであると感じている。ただ場を作るだけでは丁寧な関わりが出来ないため、サポーターにはオンライン上で対話を促すためのトレーニングを実施している。子どもを孤立させない、そして子どもの変化や気づきに応じて支援機関と連携することが出来る、新しい形での第三の居場所であると感じている。</p>	2021年7月～2021年2月
<p><u>要保護児童等を対象とした生活力を高めるグループワーク【P R e I S】</u></p> <p>・精神保健福祉士や公認心理師がスタッフとして担当している。月に1～2回、半日～1日活動している。</p> <p>2019年4月よりボランティア活動として実施している本事業であるが、これまで9名の登録者がいた。</p> <p>主な参加対象者は何等かの困難を抱えた子どもであり、子ども達が家庭で経験しがたい「生きるためのスキル」を高めるための、生活上の知識や経験、心やストレスとの向き合い方、人と繋がり誰かに相談する力などを高めるためのグループワークを実施している。</p> <p>そこでの繋がりは自発的な力もあり、また専門職もフラットに関わる関係性が交互に作用し、安心して自分を表現する場となっている。</p> <p>昨年度メンバーの参加当初ひきこもりであった中3女子2名は、活動を通してそれぞれが感情を表現するようになり、将来を見つめていくようになった。</p> <p>変化に応じ、それぞれに適応指導教室や学校の別室に繋ぎ、新しい環境で起こる心理的变化にP R e I Sでフォローや伴走を続けた。現在は、それぞれ高校に進学し、順調に高校生活を送っている。</p> <p>知識や経験が不足する中で困難な状況に陥り、相談する術もなくあきらめてしまう子ども達の一人でも多くと出会い、子ども達が自身で選択し相談する力を身に付けるサポートを行いたい。</p>	2021年7月～2021年2月

IV.事業実施体制

<p>(1)メンバー構成と各メンバーの役割</p>	<p>【運営】代表理事：菅原（医療法人経営）、理事：高口（大学教員）、坂口（児童養護施設）⇒ 全体の運営管理、各事業のマネジメント、関係機関との連携、資金運用責任</p> <p>【社員】道園（元校長）、坂西信（医師）、坂西雄（医師）</p> <p>【アドバイザー】豊田（元隠岐の国学習センター長）、竹本(行政書士) ⇒活動および運営に関する指導・助言</p> <p>【運営委員】前田(大学教員)、井上（SSW）、水摩（SSW）、正村（CS）、篠崎（CS）、大学生サポーター⇒各活動の運営</p>
<p>(2)他団体との連携体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の主たる窓口（子ども未来室・教育委員会 等）との定期的な協議、連携およびSSWを通じた具体的支援</li> <li>・社会福祉協議会や社会福祉法人公益活動協議会との協議 ・商工会議所等との定期的な協議・連携</li> <li>・あまぎやま子ども家庭支援センターやフリースクールソフィア、教育相談機関との連携・協働</li> <li>・子どもに関わる大人のプラットフォーム事業「なないろリボン」の研修及び対話活動継続による地域、福祉、教育との連携</li> </ul>
<p>(3)想定されるリスクと管理体制</p>	<p>本事業においては、様々な困難さを抱えた児童を対象とするため、その情報管理及び問題発生時の対応には十分な配慮が必要となる。そのことから、本団体は児童の支援に携わる多様な関係機関との連携を今以上に強化するための定期的なコミュニケーションはもとより、サポーターのスキルだけでなく意識向上のための教育を行うこと。そして情報管理の観点からは、ICTの機器整備や情報共有の規定の整備等に務める。</p>

V.関連する主な実績

<p>(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無</p>			
<p>コロナウイルス感染症に係る事業</p>			
<p>①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)</p>	<p>有 <input type="checkbox"/></p>	<p>無 <input checked="" type="checkbox"/></p>	<p>有の場合 その詳細</p>
<p>②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない</p>	<p>無 <input checked="" type="checkbox"/></p>	<p>※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）</p>	
<p>(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績</p>			
<p>【研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校生徒への学校におけるグループワーク実践についてー学校ソーシャルワーカーの役割と可能性ー(福岡県立大学 紀要)</li> <li>・コロナ禍における地域公益活動の成立要因ースクールソーシャルワーカーとの連携による活動生起に着目してー(日本社会福祉学会)</li> </ul> <p>【連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PREISの活動：大牟田市子ども未来室 子ども家庭課、大牟田市教育委員会、大牟田市児童相談所、県内の大学</li> <li>・寺子屋の活動：大牟田市教育委員会、県内の大学、あまぎやま子ども家庭支援センター、坂西内科小児科</li> </ul>			